出エジプト記結晶の学び(2) 第 15 週
神の御言は、神を愛し尋ね求める者の経験において光の領域である

鳥瞰	御言の機能は、神ご自身の機能、活動です。神聖な光は、神の表現の性質です。それは真理の源です。わたしたちは光を持たないときはいつでも、エホバの御名に信頼すべきであって、自らの火をともして苦しみの中へと落ちてしまうべきではありません。神の光の中で、わたしたちは光を見ます。この光は御言の中に集約されています。御言がわたしたちの経験において、わたしたちにとって光の領域であるかどうかは、わたしたちが御言に来るときの態度と状態にかかっています。	
	真理要点	経験適用
1日	1．わたしたちは、どのようにして聖書を読んでいる時に、光を得ますか？ 2．人の戒めと神の戒めは何が違いますか？	1．聖書の印刷された文字自体は光ではなく、わたしたちに光を与えることはできません。文字の聖書はせいぜい、わたしたちに知識を与えることができるだけです。光はただ神ご自身から来ます。ですから、わたしたちは神の御言から光を受けようとするなら、それを読むとき神と接触しなければなりません。これは、神の御言の機能が神ご自身の機能、神ご自身の働きであることを示します。 2．いかなる種類の人の戒めも与えられた後、それは徐々に古くなります。人の戒めは生きていません。これらの戒めは生きていないので、決して光りを放ち、照らすことはありません。しかし主によって与えられた戒めは、彼の生ける言葉です。彼の戒めは彼の生ける言葉ですから、この言葉は輝きます。この生ける言葉が暗やみの中で光を放つとき、天の光をもたらします。
2日	1．クリスチャンが自分自身の火によって霊的な道を前進することが出来ない理由を説明してください。 2．詩篇第 36 篇 9 節の「あなたの光の中で、わたしたちは光を見るのです」とはどういった意味でしょうか？	1．わたしたちは多くの時、自分で考えれば考えるほど、ますます混乱し欺かれるようになります。霊的な光は、わたしたちの感覚や思考から来るのではないことを、わたしたちは見なければなりません。クリスチャンはエホバの名に信頼し、自分の神に依り頼むべきです。そのようにして霊的な道を見ることが出来、歩くことが出来るのです。 2．前者の光は、照らす光です。後者の光は、物事の真相を示しています。これが意味するのは、わたしたちが神の光の中にいるときはじめて、あらゆる物事の真相を見ることができるということです。人は神の光の中を生きてはじめて、物事の真相を見るようになります。
3日	1．わたしたちが毎回御言に来るときは、どのように正しい態度であるべきですか？ 2．ペテロの第二の手紙第 1 章 19 節について解説してください。	1．わたしたちは御言に来るときはいつも、光に来ます。なぜなら、御言は神の具体化であり、神は光であるからです。わたしたちは正しい態度で御言に来るとき、光を受けるだけでなく、光の中におり、また光の下にいるという感覚を持ちます。そして、全聖書はわたしたちの経験の中で光を放つ書となります。 2．これは次のことを示します。(1) この時代は暗い夜の暗い所であり、この世のすべての人は、暗やみで行動し活動しています。(2) 聖書の預言の言葉は、信者に対する輝くともし火のように、彼らの暗やみの中で輝く霊的光を伝達します。それは（知的理解のための文字の知識だけでなく）、彼らを導いて輝く真昼に入らせ、夜が明けて主の出現の日に至るまで、暗い夜を通過させさえします。
4日	1．エペソ第 5 章 8 節から見る、わたしたちのかつてと今の状態とは何でしょうか？ 2．パウロが光の実について語った時に挙げた３つの事柄とは何ですか？	1．「あなたがたはかつては暗やみでしたが、今は主の中で光であるからです。光の子供たちとして歩きなさい。」わたしたちは、かつては暗かっただけでなく、暗やみそのものでした。今や、光の子供たちであるだけでなく、光そのものです。神は光であるのですから、わたしたち神の子供たちは、また光の子供たちでもあります。わたしたちは今や主の中で光ですから、光の子供たちとして歩くべきです。 2．善、義、真実、この三つは三一の神と関係があります。<u>善は</u>、光の実の性質です。実は命とその性質のことです。光の実の性質は父なる神です。<u>義は</u>光の実の方法、あるいは手続きを示します。キリストは神の義なる手続きにしたがって、神の定められた御旨を完成されました。<u>真実は</u>光の実の表現です。疑いもなく、この真実は、三一の神の第三である実際の霊を指しています。
5日	1．聖書が輝くかどうかは、わたしたちの態度と状態にかかっているというのは何故でしょうか？ 2．わたしたちの視力はどのようにして単一であり、どのように実行しますか？	1．わたしたちがへりくだって主にあわれみを求めるなら、聖書はわたしたちにとって光の書となるでしょう。御言のある箇所を読んだ後、あなたはあまり理解しないかもしれませんが、光の中にいるという感覚を持ちます。これは、聖書が神聖な御言であることを証明します。あなたは新聞や雑誌を読むとき、光の中にいるという感覚を持ちません。しかし御言を読み、聖書の数節を誠実な心とへりくだりの態度で祈り読みするなら、あなたは光の中へともたらされたことを感じるでしょう。 2．わたしたちの二つの目は、一度に一つの物にだけ焦点を合わせることができます。もし何とかして一度に二つの物を見ようとするなら、わたしたちの視力はぼやけてしまうでしょう。もしわたしたちの目が一つのものを注視しているなら、わたしたちの視力は単一であり、全身は光に満ちるようになります。わたしたちの宝を天と地の両方に蓄えるなら、わたしたちの霊的な視力はぼやけてしまうでしょう。わたしたちは単一な視力のために、宝を一箇所に蓄えなければなりません。
6日	1．イザヤ書第 50 章 10 節から 11 節はどのようにして正確に解釈しますか？ 2．箱船にある天に向かう一つの窓の霊的な意義とは何ですか？	1．わたしたちが神を畏れ、神の御声に従うなら、突然暗やみの中へと落ち込んで光がなくても、主の御名に信頼し、わたしたちの神に依り頼んで、神の光が照らすのを待つべきです。もう一方で、この節はまた、わたしたちに光がないとき、火をともしたり自分の光を作ったりして、自分で道を見いだすべきではないと警告しています。なぜなら、もしわたしたちが神を待たず、自分で作った光を帯びるなら、結局、苦しみのうちに倒れ伏すからです。 2．箱船には天に向かう一つの窓がありました。それは明かり窓でした。「窓」というヘブル語の言葉には、「正午」という言葉と同じ語根があります。ただ一つの窓とただ一つの光があるだけです。使徒パウロは、彼が宣べ伝え、教えたものと異なる教理を拒絶しなければならないと言いました。神のエコノミーの中で、また神の召会の中で、一つの窓だけがあるべきです。光は北、南、東、西からではなく、ただ天から来ます。
まとめ	神聖な光は神の性質を表し、また神聖な真理の源です。クリスチャンは光が無い、すなわち霊的な暗闇の中にいても、エホバの名に信頼し、神によって光を得ます。神の御言は神聖な光の凝縮であり、わたしたちは正しい態度で御言に来るなら、光の中におり、また光の下にいるようになります。わたしたちは次のような態度であるべきです。へりくだり、あわれみを求めて主を仰ぎ見、開かれて光を受け、正しい心を持ち、目が単一であり、主の照らしに依り頼み、時代の務めを通して光を受け、純粋な心で神を追い求めます。	